

横須賀市の学力向上に向けた 目標および目標指標と、 学力向上に向けた各学校の 取り組みについて

学力向上に向けた目標および目標指標の捉え方

目標1 学び合う集団の育成を図る

<目標指標>

- ◆主体的・対話的に授業に臨もうとする意識の向上
- ◆自己肯定感の向上

目標2 粘り強く学ぶ力の育成を図る

<目標指標>

- ◆粘り強く課題に取り組む姿勢の向上

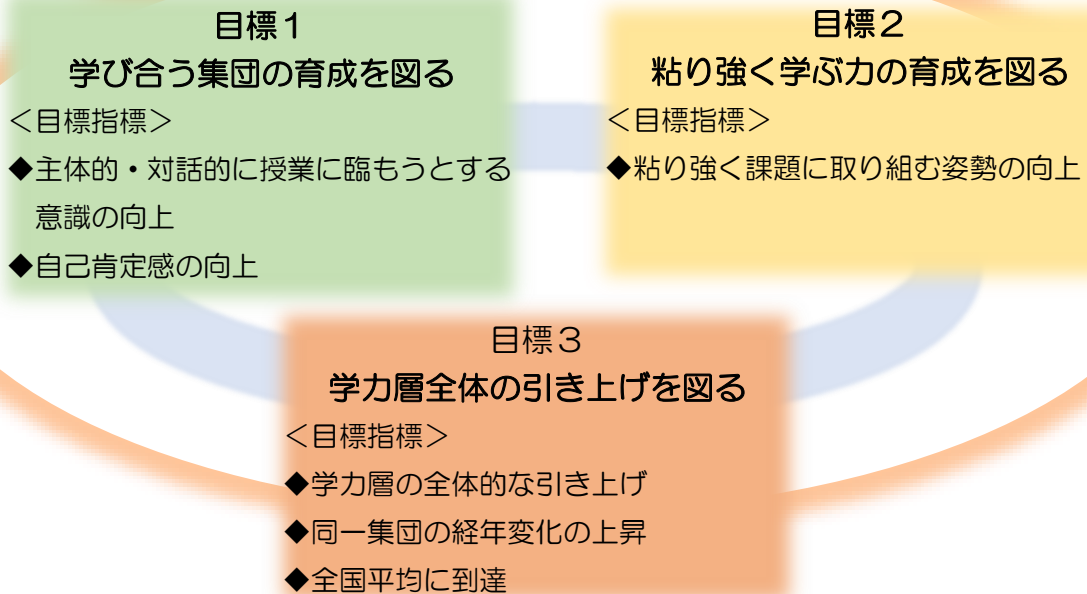
目標3 学力層全体の引き上げを図る

<目標指標>

- ◆学力層の全体的な引き上げ
- ◆同一集団の経年変化の上昇
- ◆全国平均に到達

学力向上に向けた目標および目標指標の捉え方

前推進プランの目標指標の分析（参考資料「横須賀市のこれまでの学習状況と分析について」）に基づき、これからの横須賀市の学力向上に向けた取り組みの目標および目標指標を次のように定めました。



3つの目標の捉え方

変化が激しく、予測困難な時代においても通用する「確かな学力」を身に付けるためには、学びに対して主体的に取り組み、自分の良さや個性を生かすとともに、他者の多様な価値を認め、協働し合うような経験が大切です。また、自らの学びを調整したり、あきらめずに粘り強く学ぼうとしたりする力の育成が重要になります。

目標1では、児童生徒が主体的・対話的に臨み、自分のことを大切な存在だと実感できるような授業づくりを通して、**学び合う集団の育成**を図ります。目標2では、難しい課題に対しても工夫して解決しようとする経験や、一人でもあきらめず課題にチャレンジする経験を積むことを通して、**粘り強く学ぶ力の育成**を図ります。この目標1・目標2の視点による授業実践や指導の改善を繰り返すことによって、学び合う集団の育成や、児童生徒一人一人の力の育成が図られ、目標3の**学力層全体の引き上げ**につながっていきます。

3つの目標はそれぞれが独立しているわけではなく、密接に関連合っています。3つの目標のつながりを意識して、各学校の実情や児童生徒の状況に合わせた取り組みを進めましょう。

目標1

学び合う集団の育成を図る

●● 目標について ●●

「学び合う集団」とは、児童生徒が自分の良さや可能性を認識して個性を生かしつつ、多様な他者を価値のある存在として尊重し、仲間と協働して様々な課題を解決していく集団です。

「児童生徒が主体的・対話的に授業に臨む」「児童生徒が自分のことを大切な存在だと実感できる」という視点を持ちながら授業をつくることで、児童生徒の学びに向かう意識や自己肯定感が高まります。このような授業によって「学び合う集団」の質が向上し、児童生徒の学びを深めます。

● 学力向上に向けた各学校の取り組みについて ●

児童生徒が主体的・対話的に臨む授業づくり

児童生徒の学力向上においては、児童生徒が学びを自分事として捉え、主体的・対話的に授業に参加しようとする意識を高めることが大切です。それが、知識および技能の習得や、思考力・判断力・表現力等の育成へとつながります。

児童生徒の意識を高めるには、例えば、グループワークや話し合い活動を目的や状況に応じて取り入れ、自分の意見を表現したり他者の意見に共感したりしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができたと実感するような場面が必要です。

また、自分たちで課題を設定し、仲間と解決しようとするような、探究的で協働的な単元・題材計画を立てることも効果的です。このような学習経験を通して、新しい考え方や他者と関わることの良さに気づき、自らの学びを深めることができたという手応えを積み重ねることで、次の学びへの意欲を引き出します。

児童生徒の学び合い、高め合おうとする意識を向上させるために、互いの意見を尊重し合いながら、協働し、学びを深める授業を実践していきます。

自分のことを大切な存在だと実感できるような授業づくり

これまで市が行った意識調査や市学習調査の質問紙調査の結果から、自己肯定感と学習意欲には相関があることが明らかとなっています。

児童生徒の自己肯定感を高めるには、「認められている」と実感するような経験が

重要です。誰かが発した疑問や意見について、みんなで真剣に考えたり、共感したりするような授業づくりが大切です。

特にグループワークや話し合い活動では、何のために話し合っているのか分からないような状況にならないように、活動のねらいに即した支援を行い、他の児童生徒と意見交換したり、協議したりできるようにすることが大切です。また、「こんなことを言ったら、『間違っている』と否定されてしまうのではないかと不安にならないように、それぞれの個性や学び方を尊重し、全ての児童生徒の自己肯定感を高める授業づくりを行います。

目標指標 ◆主体的・対話的に授業に臨もうとする意識の向上

市学習調査（小5・中2）

「授業等の話し合いの活動で、自分の意見を広げたり、深めたりできているか」
「みんなで課題を解決する場面で協力しようとしているか」

指標	基準値	目標値
市学習調査の質問紙調査にて、小5・中2の「授業等の話し合いの活動で、自分の意見を広げたり、深めたりできているか」の肯定回答率が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っているか。	小4・中1時の肯定回答率	毎年その前年度を上回る
市学習調査の質問紙調査にて、小5・中2の「みんなで課題を解決する場面で協力しようとしているか」の肯定回答率が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っているか。	小4・中1時の肯定回答率	毎年その前年度を上回る

目標指標 ◆自己肯定感の向上

市学習調査（小5・中2）「自分のことを大切に思うことができるか」

指標	基準値	目標値
市学習調査の質問紙調査にて、小5・中2の「自分のことを大切に思うことができるか」の肯定回答率が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っているか。	小4・中1時の肯定回答率	毎年その前年度を上回る

目標2

粘り強く学ぶ力の育成を図る

●● 目標について ●●

授業においては、教師の指示や説明に沿って展開するだけの指導や、正解にたどりついたかどうかという視点だけで児童生徒を評価しているのは、「粘り強く学ぶ力」の向上は図れません。

これまでに習得した知識および技能や、身に付けた思考力、判断力、表現力等を児童生徒が自ら活用し、挑戦しがいのある課題に対して最適解を見出そうとチャレンジする学習経験と、一人一人が試行錯誤しながら学ぶ姿に焦点を当てた学習評価が、児童生徒の「粘り強く学ぶ力」を育てます。

● 学力向上に向けた各学校の取り組みについて ●

難しい課題に対しても工夫して解決しようとする経験

「難しい課題」とは、児童生徒の可能性や能力を一步高めるような挑戦的な課題です。粘り強く学ぶ力の向上を図るためには、そのような課題に対してもあきらめずに工夫して解決しようとするような経験を積ませることが重要です。

探究的な学習活動や協働的な体験活動を通じて、児童生徒自身が、それまでの学びを振り返り、次の学びへの見通しをもったり、より良いものを目指して試行錯誤したりするような、学びを調整する場面を含む単元・題材計画や、評価計画が必要です。その学びの過程での教師による評価（授業内での言葉がけや、ノートへのコメント等）や、その学びを通して得た成功体験は、自己肯定感の向上を支えます。

一人でもあきらめず課題にチャレンジする経験

市学習調査の結果の分析から、「目的や意図に応じて、理由を明確にししながら、自分の考えをまとめて書く」ことについて課題があることが分かりました。一人一人の児童生徒がどのように解答しているのかを分析してみると、無解答率の高さが顕著となっています。

グループで課題を解決する学習活動においても、個々の学ぶ力がどう向上している

かを見取することは大切です。グループ活動に入る前に、自分なりの考えをまとめてみることや、グループ活動が終わった後で、自分の考えの変容や友だちから学んだことを一人一人が言語化することも重要です。

そして時には、これまで学んだことを使って自分一人の力で取り組む課題も必要です。その場合、たとえ課題の解決にはたどり着けなくても、粘り強く考え、これまでの学びを生かしてチャレンジしようとした姿勢を積極的に評価しましょう。そうした経験を繰り返すことで、一人一人のあきらめずに学びに向かう力が向上します。

目標指標 ◆粘り強く課題に取り組む姿勢の向上

市学習調査（小5・中2）「難しい課題にも挑戦して取り組もうとするか」

指標	基準値	目標値
市学習調査の質問紙調査にて、小5・中2の「難しい課題にも挑戦して取り組もうとするか」の肯定回答率が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っているか。	小4・中1時の肯定回答率	毎年、その前年度を上回る

市学習調査（小5・中2）「記述により解答する問題の無解答率」

指標	基準値	目標値
市学習調査にて、小5・中2の記述により解答する問題の無解答率が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を下回っているか。	小4・中1時の無解答率	毎年、その前年度を下回る

目標3

学力層全体の引き上げを図る

●● 目標について ●●

目標1・目標2の視点による授業実践や、指導の改善を繰り返すことによって、学び合う集団や児童生徒一人一人の力の育成が図られ、結果として目標3の学力層全体の引き上げにつながっていきます。

3つの目標はそれぞれが密接に関連し合っています。目標3の数値結果を分析する際には、目標1・目標2の取り組みとのつながりの中で児童生徒の姿を見つめ直し、児童生徒一人一人の学習状況に応じた指導の改善につなげ、学力層全体の引き上げを図ります。

● 学力向上に向けた各学校の取り組みについて ●

個に応じた指導の充実

学力層の全体的な引き上げを図るためには、目標1・2に示したような授業改善を進めつつ、個に応じた指導の充実を図ることが重要です。

児童生徒の学びを1時間単位ではなく、単元や題材全体を一連の学びとして捉え、長期的な視点で一人一人の学び方に目を向ける指導が求められています。

個に応じた指導の充実に当たっては、児童生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、児童生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などを取り入れること、ICT等教材教具の活用、教職員間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善が必要です。

また、難しい課題に対して挑もうとしたり、一人でもあきらめず課題にチャレンジしたりしようとする児童生徒に寄り添い、つまずきそうなことを予想しながら適切な支援を行うことは、一人一人の学びの成功体験を支えます。

同一集団の経年変化を追い、各学年の状況を分析

同一集団の経年変化を追うことで、児童生徒の学習集団としての成長を可視化し、長期的な視点から指導の成果や課題を捉えることができます。調査を行う全ての学年において、前年度からの学習集団としての成長を分析することが重要です。

各学校においては、各学年における学力向上の取り組みの成果や課題を分析し、児

児童生徒の実態に合わせた指導の充実や改善を図ります。

なお、これまでの市学習調査の結果では、小4・中1の学習内容に課題が生まれる傾向があります。そのため、小4・中1の内容を取り扱う小5・中2時の調査の結果については、特に丁寧な分析が必要です。

また、小中一貫教育に関する取り組みにおいて、全国学力調査および市学習調査の結果を交流し課題やその解決策を見出す中で、小学校高学年と中学校1・2年生の学習を一体として捉えた取り組みを行うことも重要です。

全国との比較による、身に付けている学力の定着状況の確認・分析

全国学力調査では、学習指導要領の理念・目標・内容等に基づき、全ての児童生徒に身に付けさせるべき内容を調査問題として出題しています。全国的な児童生徒の学力との比較をすることで、身に付けさせるべき内容の定着状況を確認・分析するために、目標指標として設定しました。

各学校においては、平均正答率が全国の平均に到達しているかどうかの分析だけでなく、設問ごとに正答率の分析を行い、全国の状況と大きくかけ離れている設問や、例年、学校の中で課題として捉えている設問について検証を行うなどし、指導の充実や改善を図ります。

目標指標 ◆学力層の全体的な引き上げ

市学習調査（小5・中2）「正答率40%未満の児童生徒の割合」

指標	基準値	目標値
市学習調査にて、小5・中2の正答率40%未満の児童生徒の割合が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を下回っているか。	小4・中1時の割合	毎年、その前年度を下回る

市学習調査（小5・中2）「正答率80%以上の児童生徒の割合」

指標	基準値	目標値
市学習調査にて、小5・中2の正答率80%以上の児童生徒の割合が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っているか。	小4・中1時の割合	毎年、その前年度を上回る

目標指標 ◆同一集団の経年変化の上昇



市学習調査（小5・中2）

「市の平均正答率の割合が、同一集団の前年度の数値を上回っているか」

指標	基準値	目標値
市学習調査にて、小5・中2の*市の平均正答率の割合が、同一集団の前年度値(小4・中1時)を上回っているか。	小4・中1時の割合	毎年、その年度を上回る

*市の平均正答率の割合…全国の平均正答率を基準とした市の平均正答率の割合

目標指標 ◆全国平均に到達



全国学力調査（中3）「国語・数学が、全国の平均正答率に到達しているか」

指標	基準値	目標値
全国学力調査にて、中3の国語・数学が全国の平均正答率に到達しているか。	中3の全国平均正答率	全国の平均正答率を上回る

学力向上推進プラン

横須賀の全ての児童生徒に「確かな学力」の育成を図る

目標1

学び合う集団の育成を図る

目標指標

◆主体的・対話的に授業に臨もうとする意識の向上

◎市学習調査にて、小5・中2の「授業等の話し合いの活動で、自分の意見を広げたり、深めたりできているか」「みんなで課題を解決する場面で、協力しようとしているか」の肯定回答率が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。

◆自己肯定感の向上

◎市学習調査にて、小5・中2の「自分のことを大切に思うことができるか」の肯定回答率が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。

目標2

粘り強く学ぶ力の育成を図る

目標指標

◆粘り強く課題に取り組む姿勢の向上

◎市学習調査にて、小5・中2の「難しい課題にも挑戦して取り組もうとするか」の肯定回答率が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。

◎市学習調査にて、小5・中2の記述により解答する問題の無解答率が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を下回っている。

目標3

学力層全体の引き上げを図る

目標指標

◆学力層の全体的な引き上げ

◎市学習調査にて、小5・中2の正答率40%未満の児童生徒の割合が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を下回っている。

◎市学習調査にて、小5・中2の正答率80%以上の児童生徒の割合が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。

◆同一集団の経年変化の上昇

◎市学習調査にて、小5・中2の*市の平均正答率の割合が、同一集団の前年度値（小4・中1時）を上回っている。

*市の平均正答率の割合…全国の平均正答率を基準とした市の平均正答率の割合

◆全国平均に到達

◎全国学力調査にて、中3の国語・数学が全国の平均正答率に到達している。